

以下の記載は、表題の診療ガイドラインから漢方製剤に関する記述を抽出したものです。診療において漢方製剤を使用される場合には、必ず、ガイドライン全体をお読みになり、その位置づけを正しく理解された上で行ってください。

ガイドラインのバージョンは最新のもののみを掲載しています。改定がなされていないガイドラインは、そのまま掲載しています。このガイドラインと其中的漢方の記載を、診療の参考にすべきかどうかの判断は、使用者の責任で行ってください。

高齢者に対する適切な医療提供の指針

厚生労働科学研究費補助金（長寿科学総合研究事業）「高齢者に対する適切な医療提供に関する研究」研究班

日本老年医学会雑誌 第 51 巻 第 1 号、2014 年 1 月 25 日発行

Minds 掲載 無

■1 漢方薬

疾患:

高齢者に対する薬物療法

有効性に関する記載ないしその要約:

高齢者に対する薬物療法の基本的な考え方の項に、下記の記載がある。

『4. 代替手段が存在する限り薬物療法は避け、まず非薬物療法を試みるべきである。全ての薬物（ビタミンや漢方薬、OTC など含む）をお薬手帳などを用いて把握し、併用薬が不明な場合、原則的に新たな処方は避ける。』